

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

明るく、健康的で、自主・創造性に充ちた意欲を持ち、進んで社会と人類の福祉に寄与するに足る人物を育成する学校をめざす。

- 1) 異世代・異文化交流によって多様性を享受できる、思いやりのある人物を育成するとともに、多様性を享受できる環境を提供できる学校をめざす。
- 2) 地域連携を通して、自分を取り巻く社会の課題に目を向け意欲的に関わろうとする人物を育成するとともに、地域に信頼される開かれた学校をめざす。
- 3) 自然災害が多発している今日の日本において、自らの意志によって行動し、己を守り周りを支えることのできる、危機対応に長けた逞しい人物を育成するとともに、危機対応を前提とした安全教育・防災教育を推進する学校をめざす。

2 中期的目標

1 教員一人ひとりが、自分の力を発揮し、教員相互に高めあう学校

(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる

- ア 授業において、常に生徒の知識欲や満足度を高めるための研究と実践を教員は心がけ、生徒一人ひとりの学習意欲の向上を図る。
- イ 学期ごとに学習の定着度を確かめ、生徒のフォローを学年・教科担当者全体で行う。
- ウ 昨年度、全教室に ICT 機器が設置されたことに伴い、これらを積極的に活用し、より魅力ある授業の取組みを進める。
- エ 放課後や休日における学習習慣が定着する取組みを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和5年度まで73%以上を維持する。(H30 73%, R1 81%, R2 81%)

※教職員向け学校教育自己診断における授業関連の肯定的意見を令和5年度まで75%以上を維持する。(H30 94%, R1 88%, R2 88%)

(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる

- ア 教員相互授業見学の意識の共有化を図り、アクティブ・ラーニングの手法をベースとした授業改善をさらに推進する。
- イ 「働き方改革」や健康管理の観点から、全校一斉退庁日の設定とノークラブデーの徹底を図る。

※相互授業見学への教員の参加を、授業アンケート等を活用して前年度以上に増やす。(H30 142, R1 78, R2 83)

※若手教員技量向上へ(新採3年目まで対象の)新三研修を継続させ、それを全体研修へと発展させていく。

2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校

(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力・支える知恵」の育成に取り組む

- ア 積極的な挨拶・声掛けを通して、人間関係構築のきっかけとさせていくとともに、規範意識・人権意識の向上に努める。
 - イ 生徒会活動・学校行事の活性化、部活動の充実化を図る。
 - ウ 国際交流活動を推進することにより、グローバルな世界観を培う。
 - エ 「朝の読書」を通して読書を生活習慣の中に確立させるとともに、図書室の役割を強化し、生徒の読書意欲を喚起する環境を整える。
- ※生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育関連の肯定的意見を令和5年度に90%以上とする。(H30 84.2%, R1 88.8%, R2 90.7%)
- ※年間遅刻者延数前年度比10%の減少を図る。(H30 1557, R1 1285, R2 1570)
- ※部活動加入率を令和5年度70%以上を目標(H30 62%, R1 62%, R2 54%)とし、生徒向け学校教育自己診断における生徒会活動関連の肯定的意見を令和5年度まで80%以上を維持する。(H30 79.4%, R1 83.1%, R2 79.1%)
- ※海外語学研修を積極的に展開していく。参加生徒を軸として多くの生徒が関わることができる取組みを実践していく。
- ※生徒向け学校教育自己診断における朝の読書関連の肯定的意見80%以上とする。(H30 70%, R1 80%, R2 83%)

(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく

- ア 文系選抜コースで、実践運用能力重視の英語の授業、読解力・表現力を取入れた国語の授業を展開し、難関大学への合格をめざす
- イ 目標達成に最後まで努力する態度を養い、一般入試に挑戦する生徒を増加させる。
- ウ 生徒の進路実現を支援する計画・体制を確立して、職業観を育成し、目標達成に最後まで努力する態度を育む。
- エ 進学講習を組織的に実施する。

※外部指標のある教材や模擬試験を活用し、進学希望者に自己の学習定着度を見つめさせ、進学への意識を高めさせていく。

※卒業生の全合格数に占める4年制大学合格率を令和5年度まで60%を維持する。(H30 52.5%, R1 67.4%, R2 56.9%)

※学校斡旋の就職内定率を100%とする。(H30 100%, R1 100%, R2 100%)

※生徒向け学校教育自己診断における進路指導関連の肯定的意見を令和5年度まで80%以上を維持する。(H30 80%, R1 89%, R2 88%)

(3) 安全で安心な学校づくりを行う

- ア 教育相談室を活用し教育相談体制を充実させる。担任等との面談機会を活用していく。
- イ 円滑な人間関係の構築を支援し他者を思いやる心を育てるため、ガイダンス・HRの系統化を図る。
- ウ 支援の必要な生徒とその合理的配慮について実態の把握と教員の共通理解を促進、支援の充実を図る。
- エ 地元自治体や地域との連携のもと、防災・減災に向けた取組み及び緊急避難対応等への取組みを推進する。

※生徒向け学校教育自己診断における教育相談関連の肯定的意見を令和5年度に70%以上とする。(H30 59%, R1 57%, R2 64%)

※生徒向け学校教育自己診断における人権教育関連の肯定的意見を令和5年度まで70%以上を維持する。(H30 70%, R1 76%, R2 83%)

※要支援生徒の情報共有に向けたケース会議や教員研修の充実。

3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校

(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく

- ア 【学校を外に開く】自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との交流を通して地域貢献を推進する。
- イ 【学校を外に開く】中学校訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。
- ウ 【学校を外に開く】高石市合同津波避難訓練との連携を継続し、教職員・生徒ともに津波等に対する危機管理意識の更なる向上を図る。
- エ 【学校を内に開く】学校説明会、HP等を活用して、積極的な情報発信に努める。

- オ 【学校を内に開く】学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会との連携を強化する。
- ※地域交流が活発であったか。
 - ※新入生の出身中学への訪問も含め、生徒、教員による中学校訪問合計数 100 件以上を維持する。(H30 121, R1 114, R2 30)
 - ※クラブ体験を含めた体験入学者数、学校説明会参加者数の合計延べ 700 名を維持する。(H30 767, R1 769, R2 769)
 - ※生徒向け学校教育自己診断における危機管理関連の肯定的意見 80%以上を維持する。(H30 83.2%, R1 89.7%, R2 90.8%)
 - ※保護者向け学校教育自己診断における学校評価関連の肯定的意見 80%以上を維持する。(H30 88.7%, R1 89.3%, R2 87.2%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年1月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(学校生活) 生徒の「学校生活は楽しく充実している」の肯定回答は、92.7%[R2年度 91.8%]。コロナ禍が続いているが、前年度以上の肯定率数値に、前向きに学んでいる生徒の意識の高さがうかがえる。</p> <p>(授業) 「授業はわかりやすく、工夫されている」という質問事項での生徒の肯定率は 86.5%[R2年度 81.1%]。また、ICT 機器や情報端末の効果的活用の肯定回答率が 85.7%[R2 年度 77%]。 出席できない生徒へのオンライン授業が始まるなど ICT 活用環境が急速に整いだしたことで、教員が前向きに認識し積極的に活用するなどの工夫が、肯定率アップに結びついたと思われる。</p> <p>(全般) 保護者の肯定的回答率が低かった項目は「コロナ禍でありながら、文化祭や芸術鑑賞会などの生徒会行事が活発である」の 59.8%[R2年度 73.7%]と「文化祭の動画を視聴したり、授業参観や PTA 活動などで学校に行ったことがある」36.6%[R2年度 48.4%]の 2 項目で、保護者に活動や行事を周知しきれなかった面の反省と、PTA 活動を軒並み中止にせざるを得なかったにせよ、学校に来てもらう機会創出や動画視聴・オンライン等により貢献的なものが得られる工夫が必要であり、課題と考える。保護者・生徒ともに、昨年度より全体的には肯定回答率は高まっており、新型コロナウイルス感染症がなかなか収まらない状況下ではあるが、保護者・生徒の期待と信頼が込められた診断結果に、教職員一丸となって応えられるよう環境改善に努めていく。</p>	<p>第1回(令和3年7月31日) ○ 昨年度から続いているコロナ禍で、本校も臨時休業が今学期4月より複数回続いたことに対し、勉強の遅れやクラブ活動の自粛の影響を心配するご意見をいただいた。本校においては府教委の示されたガイドラインに沿って落ち着いて授業ができており、部活動も高体連等の指針に沿った指示を生徒たちも順守してくれているので、現時点学校内感染は出ていないとの説明にご理解をいただいた。 ○ PTA活動等がコロナ禍の影響で思うようにできていないため、今後の活動の工夫を学校側に求められた。特に1年生保護者の学校に来る機会がほぼ持てなかった点で、役割引継ぎが不十分であるとのご意見をいただいた。 ○ 海外語学研修中止に代わる国際交流事業の検討が必要ではないかとのご意見をいただいた。今後は、海外学校とのオンライン交流を模索していく学校の方針に、賛同のご意見をいただいた。</p> <p>第2回(令和3年12月21日) ○ コロナ禍においての、部活動や修学旅行・災害ボランティア事業の実施に対して、学校の工夫や努力に大きな賛辞を得た。 ○ 地域連携事業は、コロナ禍によりこれまでの予定がほぼ中止となっているが、地域からは一刻も早い再開を待っているとの好意的なご意見をいただいた。 ○ 来年度から新学習指導要領が導入される中で、私立高校が36単位等の授業時数の多さを謳う等、公立高校との差別化を打ち出している点で、差が出ない対策が必要とのご意見をいただいた。</p> <p>第3回(令和4年2月22日) ○ クラブ加入率が下がっている点で、コロナ禍による休業時期がクラブ勧誘期間と重なったためとの回答に、効果的な策を引き続き図るよう激励を受けた。 ○ 遅刻者が目標値を超えて増加している点について、特定生徒に偏っていることと、授業日数確保のための土曜授業で極端に増えている点で、PTA等の協力を求めた。 ○ コロナ禍の状況にあり、制約が掛かるのも理解できるが、保護者や役員の立場として、次年度できるだけ行事や活動の正常化を図るよう求められた。 ○ 学校に貢献したい、PTA活動に参加したい保護者も多数いるので、実施ルールを分かりやすくして、保護者の来校機会をできるだけ作ってほしいとの要望を受けた。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
<p>1 教員一人ひとりが、教員相互に高めあう学校</p>	<p>(1) 生徒の学習意欲の向上に取り組み、自ら学ぶ習慣を確立させる</p> <p>(2) 教員同士が高めあう意識を持ち、モラルの向上を図り、授業力UPにつなげる</p>	<p>(1) ・家庭等での学習を定着させる。 ・単元が終わるごとに、科目担当者同士で授業の進捗や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有する。 ・生徒の学習活動を肯定的に評価するとともに、興味関心を引き出すため ICT 機器等を活用した教材や指導法を研究し実践する。</p> <p>(2) ・授業アンケート結果及び校外の授業見学を通して、授業改善に取り組む。 ・初任3年目までの教員を対象とした「新三研修」を継続し、研究授業とともに振り返りも行う。 ・「府立学校における働き方改革にかかる取組について」に沿って、教員の健康管理の観点から、時間外勤務時間の縮減を行う。</p>	<p>(1) ・1日平均学習時間 60分以上 [35.3分] ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 73%以上を維持 [81%] ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見を 75%以上維持 [88%]</p> <p>(2) ・教員相互の授業見学者を 50%以上 [66.7%] ・全教員の延べ校外授業見学総数を 100回以上 [83回] ・「新三研修」に初任3年めまでの教員が全員参加したか。 ・会議の回数を絞る等教員の月平均時間外勤務時間の縮減を図る。</p>	<p>(1) ・1日平均家庭学習時間 34分(△) コロナ禍による臨時休業等、生徒の日常リズムが崩れていることが予想できる。 ・生徒向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 83.1%。(◎) ・教職員向け学校教育自己診断「授業関連」の肯定的意見 91.7%。(◎)</p> <p>(2) ・教員相互の授業見学 81.5% (◎) 見学期間を設ける等の工夫による。 ・全教員の延べ授業見学総数 148回 (◎) ・「新三研修」は、初任3年目までの教員はほぼ参加したが、初任者の長期休暇により当初掲げた全員参加の目標は達せず。(△) ・月平均時間外勤務時間は、22時間25分。(○) コロナ禍により、全体的には縮減傾向の数値であるが、特定の教員に業務が偏っている点が課題。</p>

府立高石高等学校

<p>2 生徒が入ってよかった・卒業してよかったと実感できる学校</p>	<p>(1) 入学から卒業までを見通したキャリア教育を通して、「生きる力」の育成に取り組む</p> <p>(2) 一人ひとりの生徒が希望進路を切り拓くことができるよう、進路保障していく</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくりを行う</p>	<p>(1) ・遅刻者数を減らす。</p> <p>・部活動への入部を奨励し、生徒の自立心を育む。</p> <p>・国際交流の機会を増加させる。</p> <p>・「第四次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針のもと、朝の読書を行う。</p> <p>(2) ・外部指標教材を活用し、学力の向上を図る。</p> <p>・進路希望を実現するために、最後まであきらめない意識を持たせる。</p> <p>(3) ・学年団、各分掌で生徒情報を共有する。</p> <p>・教育相談委員会を充実させ、SCとともに、生徒が相談しやすい環境作りに努める。</p> <p>・人権平和教育推進委員会の活動を充実させ、計画的な指導計画を作成する。</p> <p>・防災・減災への積極的な取り組みを図る。</p>	<p>(1) ・年間遅刻者延数 1300 名以下とする [1570 名]</p> <p>・部活動入部率 65%以上 [54%]</p> <p>・(海外)語学研修参加数 3 名以上、海外の学校との交流件数 2 件以上 [語学研修参加数 0 名、交流事業数 0 件]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 80%以上を維持 [83%]</p> <p>(2) ・4 年制大学合格率 50%を維持する [58.2%]</p> <p>・学校斡旋の就職決定率 100%を維持する。 [100%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見を 80% [88%]</p> <p>(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見を 70%以上とする。 [55%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見を 60% [64%]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 73%以上を維持 [83%]</p> <p>・防災・減災に関する報告や発表を 3 回以上学校内外で実施する。</p>	<p>(1) ・遅刻者数 1363 名 (△) コロナ禍による一部生徒の生活の乱れが遅刻の数値を押し上げた。</p> <p>・部活動入部率 47% (△) コロナの影響により新入部員加入時期を逸した影響が今年度も大きい。</p> <p>・海外高校受入れと語学留学者数の合計 0 名、しかし、コロナ禍ではあったが、オーストラリアの高校とオンラインでの交流が図れた。(○)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「朝の読書」の肯定的意見 78.8% (△) 臨時休業や行事変更等で、「朝読」の十分な取り組みができなかった。</p> <p>(2) ・4 年制大学合格率 53%。(○) 今年度は、一般入試で健闘した。</p> <p>・学校斡旋の就職決定率 100% (◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「進路指導関連」の肯定的意見 90.2% (◎)</p> <p>(3) ・教職員向け学校教育自己診断「生徒情報共有関連」肯定的意見 63.9% (△) 今年度、特に扱う量が増えたコロナに関わる個々の生徒の個人情報等は共有が難しく、特定の教員への負担増もあって今後の課題である。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「教育相談関連」肯定的意見 51.9% (△) コロナ禍で、保護者の来校を控えてもらう期間が多かったことや生徒とのタイミングのずれが要因としてあげられる。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「人権教育」肯定的意見 86.7% (◎)</p> <p>・報告・発表は 3 回実施 (予定含む)。(○) 学年、学校運営協議会で発表・報告済み。高石市役所で 3 月 15 日に 3 回目の報告会を実施予定。</p>
<p>3 保護者や外部と手をつなぎ、その真ん中に生徒のいる学校</p>	<p>(1) 公立高校として地域の信頼に応えていく</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】</p> <p>・自治会、高齢者・障がい者施設、認定こども園、小・中学校等との積極的な交流を通して、地域に貢献する。</p> <p>・高石市連携の地震津波合同避難訓練で水平避難を実施。</p> <p>・教員のみならず生徒も含めて広報活動を中心にした中学校、塾等の訪問や中高連絡会を実施し、生徒の出身中学校との連携を強化する。</p> <p>【学校を内に開く】</p> <p>・体験入学、学校説明会をはじめとする本校の良さを知ってもらう取り組みを実施する。</p> <p>・学校情報の外部発信に努める。</p> <p>・創立 50 周年に向けて準備をすすめる。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】</p> <p>・出前授業や生徒派遣等を行い、諸団体・組織との交流を積極的に図る。</p> <p>・市との合同避難訓練を実施し、「探究『防災減災』」の成果発表を市と共有する機会を作る。</p> <p>・広報委員会を核とする学校全体での外部訪問件数を前年度以上とする。 [33 件]</p> <p>【学校を内に開く】</p> <p>・学校説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 700 名を維持する。 [769 名]</p> <p>また、保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」肯定的意見 80%以上を維持する。 [87%]</p> <p>・積極的な情報発信に努める。広報紙「たか高トピック」を定期的に発行。</p> <p>・創立 50 周年に向けて同窓会、後援会との連携の機会を学期ごとに持つ。</p>	<p>(1) 【学校を外に開く】</p> <p>・コロナ禍で制限が多い中ではあったが、中学校との教員間交流や出前授業の実施など、活発であった (◎)</p> <p>・市との合同避難訓練を実施。生徒の刺激となった。3 月に市危機管理課に出向き、市長・副市長との意見交換会・報告発表会を行うこととなっている。(◎)</p> <p>・外部訪問件数 77 件 (◎) コロナ禍の合間を縫って、精力的に広報活動に努めてもらった。</p> <p>【学校を内に開く】</p> <p>・説明会・体験入学・クラブ体験等の参加人数合計延べ 710 名 (◎) 学校説明会は昨年の半分の回数しか開催できなかったが、この状況下での目標達成に、地域の期待の高さを実感している。</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断「学校評価関連」(=「高石高校に入学させてよかった」肯定的意見 83.6% (◎))</p> <p>・広報紙「たか高トピック」を月刊で発行。周辺施設や来客に配布、HP にも上げ好評を得る。(◎)</p> <p>・同窓会と月 1 度以上の頻度で、高石高校の情報を共有。後援会とも情報共有を行った。(○)</p>